

特集号



もねっとくん

じゃきよう 守恒

校区世帯数	3, 194
町内会数	19
町内組数	190
校区内総人口	約11, 300

発行者
守恒校区社会福祉協議会
093-963-1446

平成22年度 地区社会福祉協議会 現任福祉協力員研修会



ふれあい 支え合い



「福祉協力員」という言葉をご存知ですか？ 地域には、ちょっとした手助けを必要としている家庭 ～昼間高齢者一人になる世帯や障害のある人の世帯、子育て中の家庭～ などがあります。

守恒校区では、現在30人の福祉協力員が民生、児童委員らと協力し、主に65歳以上の独り暮らしの高齢者約250人を重点的に訪問し、身近な相談に乗っています。

1月29日、小倉南区全域の福祉協力員を対象とした「研修会」が、守恒市民センターに91人が参加して開かれました。「安心して暮らせる、支え合いのまちづくりへ」。

研修を振り返りながら、改めて考えてみましょう。

《研修会 一日の流れ》

1	開会	開会挨拶・オリエンテーション
2	公演	ふくし劇団「こくら南ブチボ」
3	講義	「今、地域に求められるもの」
4	昼食	
5	分科会	第1分科会「地域の見守り活動について」
		第2分科会「ホームページを活用した広報」
		第3分科会「交流事業の取り組み」
6	全体会	分科会発表・挨拶・感想・講評
7	閉会	閉会挨拶

講義「今、地域に求められるもの」 ～住民が主役の地域づくり～ 講師：小倉南区社会福祉協議会主事 金原敏之氏

地域に今求められるものとは急速なテンポで進む「高齢化」への対応です。別表。2、3世代同居が当たり前だった昔は、子や孫に助けられていましたが、「核家族化」で高齢の夫婦だけや独居世帯が増え、高齢者は次第に孤立した状態に置かれつつあります。

市民意識調査によると、「地域での支え合いは必要」と答えた人は約5割、「今は不自由していないが、支え合いは大切」を合わせると8割を超えています。にもかかわらず「地域活動に参加していない」人が6割余りいました。どうしたらいいのか。

そこで、「ふれあいネットワーク」です。そこで、「ふれあいネットワーク」です。

まず、「三つのしくみ」から連携し高齢世帯を訪問して「見守る」

- 1 見守りで発見した日常生活の不便を和らげるため、「手助けする」
- 2 見守り・助け合いで出てきた課題を行政を交えて「話し合う」



次に「7つの機能と役割」が後押しします。

- ① 住民が意見を出し合える場（連絡調整機能）
- ② 地域での福祉の問題を調査・把握する（調査・研究機能）
- ③ 多くの人に地域の福祉活動と出会う機会を設ける（広報・啓発）
- ④ 様々な人が気軽に福祉活動の学習ができる環境（人材育成機能）
- ⑤ つながりのあるまちへ世代・環境の違いを超えた交流（ネットワーク交流機能）
- ⑥ 住民会費や共同募金の取り組みを伝え、地域活動の財源確保（財源調達機能）
- ⑦ 支え合いのまちづくりへ互いに協力を惜しまない（運動・実践機能）

少子高齢化が進むこれから、一人ひとりが受け身ではなく、互いに求められる人へ踏み出す姿勢が大切ではないでしょうか。

公演：ふくし劇団「こくら南ブチボ」 「住み慣れた地域で安心して暮らせるように」

劇は一人暮らしのおばあちゃん益子さんを中心に、家庭訪問で見守る福祉協力員の南さん、民生委員の北条さん、交えて展開します。益子さんは家庭訪問に「ふん！自分のことくらい自分でできるわ。何で何度も来るんじや、せわしいわい帰れ」と、戸を開けずに度々追い返します。

それでもめげずに、連絡用のメモを戸の隙間から差し入れる二人。やがて益子さんが床から起き上がれないほどの体調不良に。

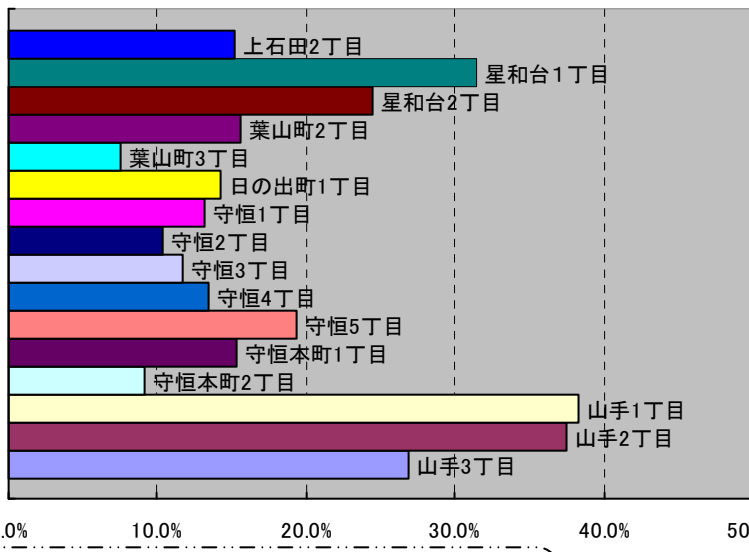
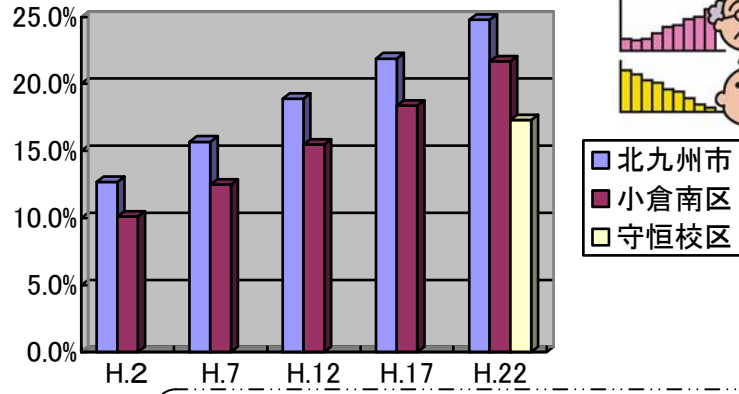
「あ、一人では何もできません」
弱っている益子さんを二人が発見、病院の手配やヘルパーの派遣まで手助けしました。

「今まで邪険にしてすみませんでした。声をかけられ、本当は心強かったんじやよ」
益子さんの言葉に、今まで自信もやる気も無くしかけていたふたり

「心を開いていただき、とてもうれしい」
ボランティアを続けていく気持ちわがわが上がったところで、ナレーション「南さんも福祉協力員を続けていく気持ちわがわが上がりました」



高齢化率の比較 (H22.9.30 現在)



小倉南区は北九州市全体で見ると比較的高齢化率は低いですが、平成22年は20%を超えている。守恒校区は平成22年現在17.4%と高齢化率は低い傾向にある。しかし、町別に見ると、昭和50年代にできた町は高齢化率が30%を超えている。



安心して暮らせるまちづくりへ

● 守恒校区ふれあいネットワークの活動 (平成 22 年度)

開催月	実施行事
4月	総会、連絡調整会議
5月	新任福祉協力員研修会
7月	「夏祭りもりつね」招待
9月	「校区体育祭」「敬老会」招待
10月	「ふれあいバスハイク」計画・実施
11月	見守り活動ノート提出・確認
12月	「ふれあい守恒」餅つき・対象者へ餅配布 年賀状を対象者へ発送
1月	小倉南区現任福祉協力員研修会 (in 守恒)
2月	「ふうせんバレーボール大会」実施
3月	「健康づくりウォーキング」案内 (中止)

*** 通年**

- ・毎月 第3水曜日 連絡調整会議
- ・「いのちをつなぐネットワーク」担当係長講話
- ・「ふれあい昼食交流会」
- ・健康づくり講話 (年5回)
- ・認知症を知る講座 (全5回)

3つのテーマに分かれて開かれた分科会。守恒校区の第一線で活動する福祉協力員やふれあいネットワーク事業担当者が「見守り活動」「ホームページを活用した広報の発信」「交流活動」をテーマに、現場の状況や今後の課題を発表しました。熱気あふれる3つの会場をのぞ

第1分科会

「地域の見守り活動」

～おとなりさん活動をたのしく～

発表者：福祉協力員 横田郁子
助言者：民生・児童員会長 松本行朝
記録：福祉協力員 宮永正子



見守り隊!

発表者の横田さんは守恒3町内居住で福祉協力員歴7年。今回は町内で活動している内容を具体的なケースをあげて発表されました。

① 楽しい昼食会

福祉協力員2人と友人2人の計4人で町内の高齢者に呼びかけ、弁当昼食会を始めました。月1回、横田さん宅で実施。今では町内会長、年長者会長、民生委員も応援団となって参加しています。

② 餅つき大会親睦会

町内会の席で若いお父さんお母さんが餅つき大会を発案し、6年前から60人余りが横田さん宅で実施。町内の皆さんがお互い顔見知りになり、高齢者の『見守りの応援団』にもなっています。この思いやりを子ども達にもつなげていきたいと願っています。

③ 対象世帯全戸にもしもの時の、かかりつけ病院や緊急時の連絡先など記入した『安心情報セット』を配布しています。

第2分科会

「ホームページを活用した広報」

～次世代へのアピール～

発表者：社協役員 松岡汲子
助言者：社協会長 笹月二男
記録：社協役員 石原和典



発表者の松岡さんはふれあいネットワーク事業2年、50代の現役世代です。パソコン、インターネットは生活の一部になっています。今回は、独居高齢者の「見守り」「手助け」を校区全体に広報している様子や、次世代へのアピールの大切さを訴えました。

① 校区での広報

年2回発行の「しゃきょう守恒」で福祉協力員の活動を紹介しています。自治会未加入の世帯や、無関心の次世代に届かないという現実的な悩みがあります。

② 昨年4月からホームページ開設

校区全体の様々な行事のお知らせ・報告などをタイムリーに届くように発信しています。守恒校区の皆さま、特に若い世代の方々にふれあいネットワーク事業を理解してかわいがっていただきたいと思っています。独り暮らしのお年寄りが安心して暮らせるよう、支援する福祉協力員の皆さんが笑顔で活躍できますようにと願っています。

【アンケートから/参加者の感想】

「自分もやがて高齢者、今のうちに人を助けられる存在に」
「校区で動き方がとても違うことにびっくりした」

第3分科会

「交流事業の取組み」

～校区行事へのおさそい～

発表者：福祉協力員 徳田哲也
助言者：福祉協力員 山根俊子
記録：社協役員 浜松千子



発表者の徳田さんは、数少ない男性の福祉協力員です。ふれあいネットワーク事業を積極的に推進されています。発表内容は、引きこもりがちな孤独感を少しでも和らげる交流事業へのお誘いです。

① ふれあいバスハイク

一昨年は改修された熊本城へ、殿様気分を味わいました。昨年は金子みすゞ記念館や萩の武家屋敷も満喫しました。参加費は2千円でした。

② 敬老会

年々参加者が増え、平成20年から会場は富士見ホールになりました。75歳以上の対象者は無料で招待しています。

③ ふれあい昼食交流会

平成6年から毎月第3水曜日、栄養士の指導と食生活改善推進員(ヘルスメイト)の皆さんの献身的なボランティアでおいしい昼食会が続いています。誕生会や演芸会など笑いが絶えません。参加費は400円です。



研修会終了！
お疲れ様でした♪

【アンケートから/参加者の感想】

「守恒校区の活動がよく理解でき、参考になりました」
「共通の課題がどの校区も同じだと思いました」



【アンケートから/参加者の感想】

「ホームページを作って、もっともっと若い人に見て欲しい」
「心の通う『便利な箱』としての使い方が大切ですね」

★研修会を振り返って～

講義に熱心に聴き入り、身につまされたお芝居ではしんみりしたり、笑ったり。3つのテーマで開かれた分科会では、守恒校区の担当者をリポーターに、熱のこもった意見が交わされました。会場では「少子高齢化で、地域での支え合いがますます必要」といった声が寄せられる一方、「地域や年代によって温度差がある」という感想も。今は元気な人も、『やがて行く道』。世代を超えて、触れ合いの輪を広げることが大切と、確認し合いました。



スタッフ一同♥

☆編集後記

この特集号の発行直前に飛び込んできた「東日本大震災」のニュース。見上げるような大津波に、人が集落が一瞬で飲み込まれていく光景に言葉もありません。ライフラインを断たれ、追い打ちをかけるように深刻な原発事故。避難所に身を寄せる被災者を目の当たりにし、「地域のぎずな」支え合いの大切さを改めて痛感しました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。(編集員一同)